

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成26年度
全日本学生柔道優勝大会
東海大が7連覇



男子優勝＝東海大

第62回全日本学生剣道選手権大会
1年生の梅ヶ谷翔（中央大）が頂点に立つ



第48回全日本女子学生剣道選手権大会
松本弥月（法政大）が女子学生日本一



全日本学生柔道優勝大会

東海大が逆転勝利、最多更新の7連覇

平成26年度全日本学生柔道優勝大会（男子63回・女子23回）は、6月28、29日に、日本武道館で開催された。大会には全国9地区から選抜されたチームが出場した。

男子は決勝で東海大が日本に勝利。7年連続で学生柔道の頂点に立ち、自らが持つ連覇の記録を更新した。女子は5人制で山梨学院が環太平洋を退けて3年ぶり5回目、3人制では鹿屋体育が2年ぶり2回目の優勝を遂げた。

試合は男女とも国際柔道連盟試合審判規定により行われ、勝敗の判定基準は有効以上、点取り方式でトーナメント戦により争われた。

■男子（62チーム出場）

学生ながら全日本選手権を制した王子谷剛志を主将とし、6年連続で優勝の東海は、初戦（2回戦）で大阪産業に7-0、3回戦で清和に6-1、準々決勝で明治に4-1で勝利した。準決勝では天理と対戦。東海は3-3と勝者数で並ばれたものの、次鋒・ウルファロン、中堅・王子谷、副将・ベイカー・茉秋の一本勝が効いて内容差で天理を降した（天理は一本勝1と技有での勝ちが2）。一方のブロックでは、2年連続準優勝の日本が準決勝で筑波と対戦。筑波は、準々決勝で前回3位の国士館を降しての四強入り。波に乗りた

男子決勝・五将戦＝東海・渡邊は、試合開始早々に日本・大内から袖釣込腰で一本勝した（右上から連続写真）





男子決勝・副将戦＝東海・ベイカー（下）が日本・佐藤に引込返で技有を奪う



男子決勝・次鋒戦Ⅱ
日本・原沢（左）が東海・松雪に大外刈を決める



男子決勝・三将戦＝
東海・ウルフ（左）が日本・安達を内股で攻める



一本勝で終えた大将・長澤を迎える東海チーム

いところだったが、日本に勝利したのは三将の神谷快のみ。日本は、全日本選手権準優勝の経験を持つ原沢久喜をはじめ、レイズカヨル、1年生ながら奮闘の佐藤和哉が、それぞれ一本勝を収め、再び東海と決勝を争うことになった。

▽決勝戦

東海	4-2	日本
阪本健介	優勢勝	制野孝二郎
松雪直斗	大外刈	原沢久喜
渡邊勇人	〇袖釣込腰	大内一徹
王子谷剛志	引分	レイズカヨル
ウルフアロン	〇内股	安達裕助
ベイカー・茉秋	〇優勢勝	佐藤和哉
長澤憲大	〇大外刈	黒木正弘

先鋒戦は日本・制野が東海・阪本から小外刈で有効を奪って勝利。次鋒戦も、日本・原沢が東海・松雪に十分な組手からの大外刈で一本勝を収め、日本がリードを広げた。

追う立場の東海。五将の東海・渡邊は、試合開始早々に袖釣込腰で攻めると、日本・大内の体はきれいな弧を描いて、背中から畳に打ちつけられた。

中堅戦は東海・王子谷と日本・レイズの対戦。ケンカ四つで組手争い

に時間を費やし、引き分けとなる。三将戦、日本・安達は東海・ウルフの内股を堪えて崩し、有効を奪う。ウルフは先制されるも、諦めずに攻め、開始3分半に内股で勝利した。

副将戦、東海・ベイカーは、日本・佐藤の奥襟を掴んで動きを封じ、右手で佐藤の後ろ帯を取るや否や、引込返で技有を奪う。そのまま時間となり、ベイカーが佐藤を退けた。この時点で東海が3-2と逆転し、勝利が確定した（大将戦で日本が一本勝しても、内容差で東海に軍配）。

大将戦は東海・長澤が日本・黒木を大外刈で降し、7年連続20回目の優勝に花を添えた。

◎優勝Ⅱ東海・上水研一朗監督

「渡邊には期待の言葉をかけ続けてきましたが、最後に男気を出しました。競った試合でも選手たちは自分を見失わずに頑張りました」

◎優勝Ⅱ東海主将・王子谷剛志選手

「4年間優勝を続けることが出来て、嬉しいです。全日本選手権のときのように、『すごいことをやってしまった』という感じです。決勝では先輩たちが、最後まで勝利を信じて戦ってくれました」

■女子5人制(34チーム出場)

2連覇中の環太平洋は準決勝で日本と対戦し、先鋒の渡部優花が日本・遠藤真海に縦四方固で一本勝。次鋒戦、中堅戦は引き分け。副将・千葉英里子は日本・原田祐花に裏投で技有を奪って勝利。ここで環太平洋が2勝をあげて決勝に進出した。

2年連続準優勝の山梨学院は、準決勝で帝京と対戦。先鋒戦で引き分け、次鋒戦で一本負するも、中堅戦



女子5人制準決勝・中堅戦＝山梨学院・佐野(左)対帝京・佐俣



女子5人制準決勝・副将戦＝環太平洋・千葉(右)対日本・原田

で佐野賀世子が帝京・佐俣優依に小外掛を決めて勝利。その後、副将戦、大将戦で一本勝を収め、3―1で帝京を降し、決勝に進出した。

▽決勝

山梨学院 2―1 環太平洋

鶴岡来雪 ①優勢勝 廣木あすか

出口クリスタ 引分 渡部優花

長内香月 合技 宇野友紀子

佐野賀世子○縦四方固 千葉英里子

井上愛美 引分 梅木真美



女子5人制決勝・副将戦＝山梨学院・佐野(奥)は、環太平洋・千葉から隅落で有効を奪い、そのまま縦四方固で抑え込んだ

先鋒戦は山梨学院・鶴岡が低い姿勢からの背負投で環太平洋・廣木から有効を奪い、優勢勝。次鋒戦は引き分け。中堅戦は、環太平洋・宇野が技有となる大外刈を2度決めて合技で勝利した。1―1で迎えた副将戦、山梨学院・佐野は背負投で技有を奪う。その後、隅落で有効とし、そのまま縦四方固に抑え込んで一本勝した。大将戦は山梨学院・井上が消極的な組手で指導3を受けるも、



女子5人制決勝・中堅戦＝環太平洋・宇野(左)対山梨学院・長内



女子5人制決勝・先鋒戦＝山梨学院・鶴岡(左)対環太平洋・廣木

時間まで環太平洋・梅木の攻撃を凌いで引き分け。2―1で山梨学院が辛勝し、3年ぶり5回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ山梨学院・山部伸敏監督「関東地区予選決勝で筑波に敗退しました。ただの負けにしないよう、練習内容や私生活を見直しました」

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！



B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



女子5人制優勝＝山梨学院大



女子3人制優勝＝鹿屋体育大



女子3人制決勝・中堅戦＝堀（右）対柳川

◎優勝Ⅱ山梨学院副将・佐野賀世子選手
「去年は環太平洋の高橋ルイ選手に一本負してしまい、チームの敗戦が決まりました。今年は勝負所で結果が出てよかったです」

■女子3人制（28チーム出場）
前回優勝の東京学芸は5人制に出場。決勝は前回3位の鹿屋体育と前回準優勝の創価。

体育・堀歩未が創価・柳川愛佳に払巻込で有効、さらに後袈袢固で勝利した。大将戦は鹿屋体育・江口高千穂が創価・蟹江和美に払巻込で一本勝。2年ぶり2回目の優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ鹿屋体育・小山田和行監督
「男女が同じ練習内容で稽古をしています。選手は厳しい稽古や怪我にもよく耐えました。地方大学でも勝てることを証明したかったです」

【大会結果】

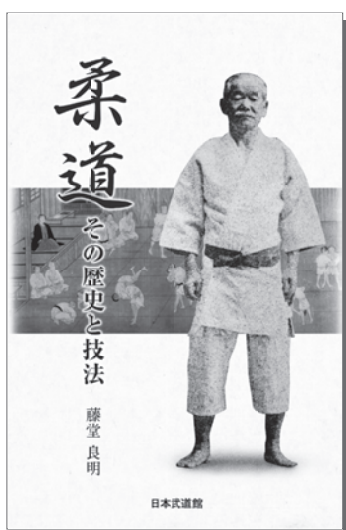
- 男子
 - ▽優勝Ⅱ東海大
 - ▽準優勝Ⅱ日本大
 - ▽三位Ⅱ天理大、筑波大
- 女子5人制
 - ▽優勝Ⅱ山梨学院大
 - ▽準優勝Ⅱ環太平洋大
 - ▽三位Ⅱ日本大、帝京大
- 女子3人制
 - ▽優勝Ⅱ鹿屋体育大
 - ▽準優勝Ⅱ創価大
 - ▽三位Ⅱびわこ成蹊スポーツ大、早稲田大

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法
 体術の起こりと技法
 組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法
 講道館柔道の創設と技法
 嘉納治五郎の乱取開発
 講道館柔道の行事と整備
 警視庁武術大会の勝利と技法
 学校体操への柔道導入の試み
 学校における柔道普及の実態
 高専柔道の起こりと技法
 嘉納治五郎の他武道への接近
 精力善用国民体育の創案と技法
 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
 第二次大戦中の柔道界と技法
 第二次大戦後の柔道禁止と復活
 格技柔道から武道柔道へ
 女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法
 竹内流腰廻
 関口新心流柔術
 起倒流柔術
 起倒流柔道
 直信流柔道
 真之神道流柔術
 天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
 柔道技法の変遷と特徴
 柔道の国際的普及と発展
 段位制度の国際比較
 柔道の国際化と課題</p> | |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

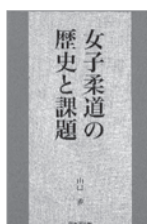


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

全日本学生剣道選手権大会
全日本学生剣道東西対抗試合

全日本女子学生剣道選手権大会
全日本女子学生剣道東西対抗試合



男子決勝＝梅ヶ谷（左）対村瀬

男子

梅ヶ谷翔（中央大）が優勝

一年生の優勝は

史上3人目14年ぶり

第62回全日本学生剣道選手権大会、第48回全日本女子学生剣道選手権大会、第61回全日本学生剣道東西対抗試合、第8回全日本女子学生剣道東西対抗試合（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）は7月5日・6日の両日、日本武道館で開催された。

学生剣士日本一を決める本大会。

男子は梅ヶ谷翔（中央大1年）、女子は松本弥月（法政大4年）がそれぞれ初優勝に輝いた。東西対抗試合では、男女とも東軍が制し、通算成績を男子が44勝16敗（1引き分け）とし、女子は3勝5敗とした。

選手権大会

5日に女子（87名出場）、6日に男子（176名出場）の試合が行われた。

トーナメント方式で、試合時間は男子5分、女子4分の三本勝負。時間内に決しない場合は、時間無制限の一本勝負による延長戦で争われた。

▽男子

準決勝に勝ち上がった4名の中で、唯一本大会において実績を残しているのは、昨年度の覇者・村瀬諒（日本体育大）。その村瀬と対戦する

のは永井雪新（中央大）。もう一つのプロックは、梅ヶ谷翔（中央大）と今村侑資（大阪体育大）の対戦。

梅ヶ谷対今村。梅ヶ谷は、鏑（つばぜ）迫り合いから引き面を何度も打つが決められない。両者は決め手のないまま延長へ。鏑迫り合いからお互いに離れて一足一刀の間合いに入ると、今村は面を、梅ヶ谷は小手を同時に打込む。梅ヶ谷に旗が2本上がり勝負がついた。

村瀬対永井。手数が多いのは村瀬。跳び込み面、逆胴、片手突きと多彩に技を繰り出す。一方の永井は、攻めきれずに技が出せない。村瀬は間合いを詰め、永井の手元が上がった隙を逃さず、跳び込み小手を決めた。村瀬が延長戦を制し、連覇を駆け決勝の舞台へ駒を進めた。

決勝、梅ヶ谷対村瀬。梅ヶ谷は、一年生らしいスピードのある竹刀さばきで、村瀬にも打ち負けずに攻める。一進一退の攻防が続く時間内では勝負がつかない。延長に入り、攻めの勢いが衰えないのは梅ヶ谷。鏑迫り合いからお互い一步、二歩と下がった瞬間、梅ヶ谷の跳び込み面が決まり、初優勝を手にした。

◎男子優勝Ⅱ梅ヶ谷翔選手(中央大)



「体力には自信があり、粘り強く、どんな汚い形でも勝てばよいという貪欲な気持ちで試合に臨みました。」

高校生の頃の得意技は、引き技や、出小手が中心で、跳び込み面はあまり決められませんでした。大学生になってからの稽古では、跳び込み面を意識して稽古を続けてきました。その稽古の成果を出せれば優勝できる可能性があると思いました。引き技でも前に出る技でも決められる強い剣道になりつつあると思います」

▽女子

準決勝は、関東大会の優勝者、渡邊タイ(日体大)を降し、初の準決勝へ勝ち進んだ川崎茜(早稲田大)が秋田恵(近畿大)と対戦。一方では、3年前に本大会2位の松本弥月(法政大)が、中四国大会覇者の中川澄霞(広島大)と顔を合わせた。



女子決勝=松本(奥) 対川崎

川崎対秋田は、両者慎重な戦いぶりで延長となる。秋田が面に跳んだところを、川崎は出小手を放ち、勝利した。

松本対中川は、両者積極的な技を出し合うが4分では決着がつかず延長へ。松本は、鏑迫り合いから中川を押し崩した瞬間に引き面を打ち勝負を決めた。

決勝、松本対川崎。技の切れ、打ち込む本数とも松本のほうが上回る。自分のペースで攻め込む松本に対し、受けにまわってしまう川崎。時間内に決着がつかず延長戦へ。先に間合いを詰めたのは松本。誘いだされるように跳び込み面を打った川崎に対し、松本は面返し胴を決めて初優勝に輝いた。

女子

松本弥月 (法政大)

悲願の女子学生日本一

◎女子優勝Ⅱ松本弥月選手(法政大)



「今日の試合は、何が良かったのかはわかりませんが、運が味方してくれたことと、一生懸命に剣道をしようと思って試合に臨んだ結果だと思います。優勝を目指そうという気持ちはありませんでした。」

試合中にやりにくい相手だとかを考えてしまうと、集中力が途切れてしまうので、とにかく旗が上がるまでは集中して試合をしました。私がこのようなよい思いができるのは、稽古仲間があつてのことなので、個人戦の優勝に満足することなく、9月の団体戦でもよい結果が出るよう頑張ります」



東西対抗試合

5日に女子、6日に男子の試合が行われた。男子は東西各20名が出場。女子は東西各10名が出場。試合時間は3分間。三本勝負の勝ち抜き戦で争われ、時間内に決しない場合は、引き分けとし、大将の試合のみ時間無制限の一本勝負による延長戦が行われた。

▽男子

東軍18将 黒木翔平(東北学院大)は、2人を勝ち抜き先よくリード



東軍17将・村瀬(右)対西軍13将・藤原。村瀬は4人抜きを果たし、東軍の勝利に貢献。

を広げた。続く17将の村瀬諒(日本体育大)は、選手権大会の悔しさを晴らす4人抜きの活躍を見せた。西軍9将・村上哲彦(松山大)は3人抜きに挑んだが、東軍11将・濱崎翔大(国際武道大)と引き分け、流れを止められてしまう。東軍がリードしたまま勝負が進み、東軍の副将・兵藤裕則(中央大)は西軍の大将・開達志(福岡教育大)と対戦。試合は延長までもつれた。開の手元が上がった一瞬を逃さなかった兵藤は、跳び込み小手で打ち取った。1人残りで東軍の勝利が決まった。

◎東軍17将II村瀬諒選手(日本体育大)

「個人戦の2位の結果は悔しいです。相手の勢いに押され、受けに回り、気持ちが引いてしまいました。東西対抗では捨て切る気持ちで試合に臨みました。せっかく選出していただいたので東軍の勝利に貢献できるように頑張りました。」

関東、全日本大会でも日体大の仲間たちが良い成績を残しているの、この勢いで、11月の団体戦では日本一を目指して頑張ります」

▽女子

先鋒、次鋒と引き分けた後、東軍

◇全日本学生剣道東西対抗試合(男子)

東軍				西軍			
監督・井島章(日本体育大OB)				監督・鶴沼克彌(同志社大OB)			
助監督・前田美枝(東京女子体育大OG)				助監督・橋本彰子(龍谷大OG)			
助監督・秋野栞見(日本体育大OB)				助監督・岩熊昌毅(福岡教育大OB)			

東軍（1人残して勝利）														西軍			
氏名			学年		学校名		各試合結果		氏名			学年		学校名			
先鋒	井手 俊宏	3	慶應義塾大		×				先鋒	望月 脩平	2	鹿屋体育大					
次鋒	宮本 具征	2	北海道大						次鋒	○竹政健太郎	3	松山大					
18将	○黒木 翔平	4	東北学院大		×	×											
									17将	岩佐 健太	3	岐阜大					
									17将	持原 大希	2	鹿屋体育大					
17将	○村瀬 諒	3	日本体育大		×	×			16将	河内 鴻佑	3	愛知学院大					
									15将	斎藤 翼	3	朝日大					
									14将	久保 淳平	4	環太平洋大					
									13将	藤原 郁哉	3	愛知学泉大					
									12将	今村 佑資	3	大阪体育大					
16将	久保田陽介	4	金沢大		×	×			11将	野田 弦汰	3	同志社大					
15将	○加藤 宏明	4	東海大		×	×			中堅	○小倉 健志	4	大阪教育大					
14将	裏田 雄大	3	北海道教育大旭川校		×												
13将	林田 匡平	3	筑波大						9将	○村上 哲彦	4	松山大					
12将	佐藤 耀	4	札幌大														
11将	濱崎 翔大	3	国際武道大		×	×											
中堅	○竹ノ内佑也	3	筑波大		×	×			8将	小笠原健介	4	関西学院大					
9将	森塚 健	4	日本体育大		×	×			7将	七篠 裕哉	4	立命館大					
8将	小林 幸唾	4	新潟大						6将	川原 淑央	4	近畿大					
7将	高倉 寛矢	3	国士舘大		×	×			5将	○大石 大貴	4	福岡大					
6将	佐藤 瞭	3	山形大		×	×			4将	瀧田 啓正	4	大阪体育大					
5将	櫻原 圭亮	4	明治大		×	×			3将	中武 剣吉	4	鹿屋体育大					
4将	遠藤 元気	4	東北学院大						副将	○島崎 勇志	4	関西学院大					
3将	西村慶士郎	4	早稲田大		×												
副将	○兵藤 裕則	4	中央大						大将	開 達志	4	福岡教育大					
大将	北川 清太	4	法政大														

※前上部の○は優秀選手賞

好評発売中

武士道に学ぶ

皇學館大学教授 菅野 覚明 著

四六判・上製・三四四頁・本体二四〇〇円十税

日本倫理思想史研究の第一人者がわかりやすく説いた、武士道書の決定版。

目次

- 第一章 武士道の大意
- 第二章 武士の流儀
- 第三章 実力世界のリーダーシップ
- 第四章 宗教的精神
- 第五章 仁義、忠孝
- 第六章 家族観、教育観
- 第七章 武士道と現代

◎ご注文・お問い合わせ◎

公益財団法人日本武道館 出版広報課
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
Tel 03-3216-5147 Fax 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

8将・矢上悠香（駒澤大）は1人抜き、勢いに乗る。しかし、西軍7将・柚木佳代（龍谷大）の上段からの面を受け、敗れる。柚木は4人目の東軍中堅の鈴木瑞生（筑波大）に敗れた。鈴木は2つ取り返し、西軍の中堅・松原沙耶香（常葉大）と引き分け、五分に戻す。以降、副将戦まで引き分けが続く、勝負の行方は大将戦へ。

東軍の松本弥月（法政大）対西軍の木村歩由美（大阪体育大）。両者は攻め合うが、一本が決まらず延長へ。打ち合いの中から木村は引き面を狙うが、松本は竹刀で受け返し、小手を打ち込み、勝負あり。大将戦を制した東軍が勝利を収めた。

【大会結果】

■選手権大会

- ◇男子Ⅱ①梅ヶ谷翔（中央大）※中央大学生としては10年ぶり8回目
②村瀬諒（日本体育大）③今村侑資（大阪体育大）、永井雪新（中央大）
- ◇女子Ⅱ①松本弥月（法政大）※法政大学生としては初優勝②川崎茜（早稲田大）③秋田恵（近畿大）、中川澄霞（広島大）

■東西対抗試合

- ◇男子Ⅱ東軍が1人残しで勝利（東軍44勝16敗1引き分け）
◇女子Ⅱ東軍が大将戦で勝利（東軍3勝5敗）

◇全日本女子学生剣道東西対抗試合（監督・助監督は男子と同じ） ※名前上部の○は優秀選手賞

東軍（大将戦により勝利）					西軍				
氏名	学年	学校名	各試合結果		氏名	学年	学校名		
先鋒 鈴木利幸子	2	札幌大	×		先鋒 和田美咲	2	鹿屋体育大		
次鋒 篠塚 光	3	青森大	×		次鋒 堀 加奈	2	名古屋経済大		
8将 ○矢上 悠香	4	駒澤大	○		8将 濱本 想子	3	広島大		
7将 武田 真弥	2	新潟大	○		7将 ○柚木 佳代	4	龍谷大		
6将 稲葉 陽花	4	仙台大	○		6将 ○松原 沙耶香	4	常葉大		
中堅 ○鈴木 瑞生	3	筑波大	○		中堅 中川 澄霞	4	広島大		
4将 坂本 紗彩	3	北翔大	×		4将 竹田 香波	4	大阪教育大		
3将 末弘 夏菜	4	国士舘大	×		3将 濱川 裕子	4	近畿大		
副将 渡邊 タイ	4	日本体育大	×		副将 有馬 七純	4	福岡大		
大将 ○松本 弥月	4	法政大	延コ		大将 ○木村 歩由美	4	大阪体育大		

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



〔写真提供〕剣道時代

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

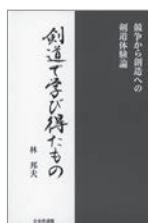


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)